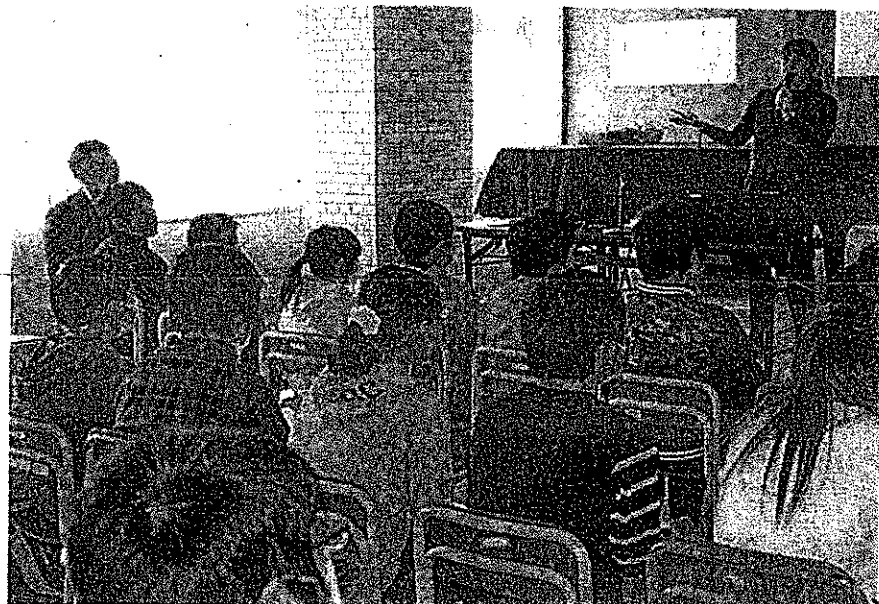


国際交流、積極的に

奥玉小 ILC見据え学習



一関市千厩町の奥玉小学校(千葉栄校長、児童107人)の国際化学習会は28日、同校で開かれた。国際リニアコライダ

ー(ILC)の誘致実現を視野に入れた講話を聴き、児童が国際交流の大切さを学んだ。ILC関連事業として実施。県国際室主事の和山アマンダさん、県科学

ILC推進室主事の佐々木崇さんらを講師に迎

和山さんから国際交流の大切さについて話を聴いた奥玉小の国際化学習会

え、5、6年生41人が受講した。

このうち和山さんは、ILCの誘致が実現した場合、大勢の外国人研究者が同市に集まるとして、国際化を

た。「外国人がいたら思い切って声を掛けてほしい。町内会や避難訓練などに一緒に参加し、日本や一関のことを教えてあげて」と呼び掛けた。

料理名や食事の勧め方を学ぶ英語のビンゴも面白い、児童がゲームを楽しみながら外国人との交流機会に備えた。菊地晴杜君(6年)は「ILCが実現したら外国人の人と交流できるよう英語を頑張って勉強したい」と話していた。